

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」  
研究成果報告書

研究テーマ（領域）名		（公募型研究領域）「公共的コミュニケーションの可視化 - 複雑社会における政治的法的判断の構造」		
研究総括	所属機関	国立大学法人 東京大学		
	部局	大学院法学政治学研究科		
	役職	教授	氏名	城山英明
委託研究費		単位：千円		
平成21年度		平成22年度		平成23年度
4,600		3,700		3,700

研究の概要
<p>公共的課題へ対応するためには、ビジョンの共有が必要であると主張されることがある。しかし、多様な公共的課題についてのビジョンを共有することは情報処理的にも容易なことではない。また、そもそも、一般に公共的意思決定においては、全ての主体が同一の価値・ビジョンに合意する必要は必ずしもない。「同床異夢」も重要である。しかし、常に「同床異夢」が可能である保証もない。トレード・オフの中での選択を強いられることもありうる。誰の如何なる利害関心を切るべきではないのか、あるいは切り捨ててもいいのかという価値判断が求められることになる。このような同床異夢と価値判断の微妙な共存関係は、公共的コミュニケーションに関わる政治的意思決定や法的判断の鍵である。特に、現在社会における公共政策的課題は複雑性を増しており、このような複雑かつ多様な課題を繋いで俯瞰した上で、判断をすることが求められる。本研究は、現在の複雑化した社会における同床異夢と価値判断の微妙な共存関係という政治学あるいは法学における基本的問題を、交通計画学・都市計画学・心理学・情報学・技術経済学・環境学・科学技術社会論多様な分野との協力により可視化するとともに、そのような判断を支援する思考枠組みや手法を明らかにすることを目的とする。</p> <p>本研究は、以下の3つの可視化から構成される。アジェンダ設定の可視化：問題構造化手法を用いて、関係者の異なった問題認識を前提として、公共的課題に関するアジェンダが設定されるプロセスを可視化した。その上で、各関係者による合意形成や意思決定のプロセスの可視化を試みた。対立構造の可視化：心理学的手法（カチナ・キューブ）を用いて、主張が対立・変遷するプロセスを可視化した。ストーリーには複数のものがあり得るのであり、一定の事例に関してそれらのストーリーの複数性を明らかにした。ネットワークと価値判断の可視化：公共的コミュニケーションプロセスでは、一定の認識枠組みの下で、関係者間のネットワークがダイナミックに展開するとともに、関係者間コミュニケーションを通して新たな知識が構築・利用される。他方、一定の価値判断が埋め込まれる。ネットワーク分析や知的認識枠組みの役割に関する定性的分析を通して、このようなダイナミックなネットワーク構築展開プロセスと知識構築プロセスを可視化した。このような工学的支援手法との連携（問題構造化手法）や情報学的手法（カチナ・キューブ、ネットワーク分析）との連携等により、公共的コミュニケーションの可視化、コミュニケーションプロセスの評価（アジェンダ設定、論点、ネットワークが限定されていないのかの評価）、事例分析蓄積が可能になった。また、文理融合的作業を通して、新たな多様な領域における政治的現象を発見することができた。</p>